

久我山だより

令和元年 9月 28日

杉並区立久我山小学校

電話(3331)3631 FAX(3247)8415

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/kugayamazhou/>

特定の課題に対する調査の分析と今後の取組

教務主幹 佐藤 啓子

3年生から6年生までの区の特定期間に対する調査の結果をもとにして、学力向上のための校内研修を行い、学年ごとに久我山小の学力について分析し、今後の学習の重点指導についてまとめました。

今年度算数の結果が大きく区平均を上回り、特に学び残しのある児童数が大変少ない結果となりました。これは、繰り返し基礎基本の問題に取り組ませた結果と考えられます。国語も言語の力が伸びています。これからも、子どもたちがさらに思考力や言語力を伸ばしていけるように各学年が実態に合わせて進めていきます。

各学年の国語と算数の主な取組

*紙面の都合で《国語》《算数》で主な取組になります。

1年生

《国語》

平仮名の学習は、字形を意識して練習し、丁寧に書くことができる子が増えた。片仮名や漢字についても同様に指導していく。音読の文章を言葉のまとまりで読むことができるように、工夫して繰り返し読ませる。

《算数》

1学期の計算の学習は、繰り返し練習により定着させてきた。今後の繰り上がり、繰り下がり計算ではゲームを取り入れ、さらに習熟を図る。文章問題で式を立てた理由を言葉や図で説明することが苦手な児童が多い。自分の考えを説明するときに使う言葉や図を共有し、ペアで説明し合う機会を設けていく。

2年生

《国語》

新出漢字を学習する際は、止め・はね・はらいなどの細かい部分にも注目し、練習してきたことで字形の整った字を書けるようになってきた。しかし、日常で習った漢字を使用する意識はまだ低い。自分の伝えたいことを整理して文章を書くことに苦手意識をもつ子もいるので、今後は新出漢字を使った短文づくりに取り組ませていく。

《算数》

時刻や時間、長さの単位などの単元で定着に時間を要する子が多かった。どの単元でも、少人数指導やパワーアップ教室等で理解を深めているが、定着度にばらつきが見られる。今後もドリルやプリントで基礎を定着させていくとともに、量感を育てたり、数学的思考を高めたりするような体験活動や、教え合う活動で説明する力も養っていく。

3年生

《国語》

基礎問題、活用問題共に区平均を上回る。聞くこと領域について課題がみられる。大事な言葉や話の中心を意識して聞く学習活動、ペア学習等による意見を聞き合う活動を増やしていく。段落の中心を意識し読むこと・書くことの学習を行う。継続して読書活動と音読の学習を推進し基礎・基本の力を養っていく。

《算数》

既習の学習内容が定着している。活用問題、特に数学的な考え方についての問題は区平均を下回る。問題場面の理解とそれをどう解決していくか等の見方や考え方を交流し、思考を深める活動を増やす。また、基礎力の定着のための習熟問題に継続して取り組んでいく。

4年生

《国語》

昨年度の調査では言語事項に課題が見られたが、今年度は全体的に区の平均を大きく上回っている。また、文学的な文章に関しても、同じく上回っている。無回答の児童も減少し、問題に最後まで取り組む力が身に付いている。しかし、自分の考えを記述する問では、問われていないことを回答している児童が多く見られた。文章全体の内容を把握できるように読み取りの時間を十分に取って、内容を捉えられるようにする。

《算数》

基礎的・基本的な力をより確実にするために、全ての領域の問題を繰り返し復習した。今年度は、全体的に区の平均を上回っており、その成果が見られる。しかし「量と測定」が昨年度より下回っているため、単位の変換の学習を繰り返し復習する必要がある。引き続き、既習学習を繰り返し練習していく。

5年生

《国語》

昨年度よりも文学的な文章に関する問題の正答率が上がっている。特に登場人物の気持ちの変化を想像すること、人物や情景の描写について注意して読むことの力が伸びている。その一方で、説明的文章において内容の中心となる語や文を捉える問題の正答率が低く、今後の課題である。接続詞に着目したり辞書で言葉の意味を調べたりする学習を行いながら、日常的にも話の要旨を意識させていく。

《算数》

補充的な問題を継続的に行ったり、問題を解く量を多くしたりしたことでも全体的に区の平均を上回った。今後もこれらの取り組みを継続する。しかし、基礎的問題に対する正答率に比べ、活用問題に対する正答率が低いという課題が見られた。応用力を伸ばすために家庭学習においても応用的な問題に取り組ませるようにする。また、それぞれの児童が自分の課題に応じた問題に取り組めるよう習熟の手立てを工夫する。

6年生

《国語》

基礎的・基本的な問題においては、区の平均を上回っているものが多い。観点別にみると、「読むこと」での平均がやや低い傾向にあった。最も正答率が低かった問題は、文学的な文章での「自分の考えを広げたり深めたりすること」で、登場人物の感じていることを自分の言葉で記述するという問題である。選択肢がある問題に比べて、「自分の考えを書きましょう。」という設問になると、空欄のままになってしまう傾向が強い。説明的文章でも同様で、記述というだけで諦めてしまうことが多いと考えられる。登場人物の心情をしっかりと捉えることや、自分の考えを書いて表現することに力を入れて指導していく。

《算数》

全ての項目において、区の平均を上回っている。5年生までの学習内容の定着をみる今回の調査において、昨年度に引き続き、学び残しの多い児童が0%という結果であった。この結果から、前年度までの基礎基本が定着している児童が多いことがうかがえる。6年生になって早い段階で5年生の学習内容を復習したことで、6年生の学習にスムーズにつながることで、「比例」と「文字を使った式」での定着が十分ではなかったため、丁寧に復習し、反復練習を重ねていくことで、基礎基本の定着と習熟を図っていく。